

令和6（2024）年度 第1回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和6（2024）年7月18日（木） 13：50～16：30

2. 場 所 栃木県立佐野高等学校 校長室

3. 出席者 委員9名、栃木県教育委員会事務局職員2名、本校職員6名

4. 司 会 高校教頭

5. 次 第

（1）校長挨拶

（2）栃木県教育委員会挨拶

（3）委員紹介・出席者紹介

（4）会則の確認

（5）会長及び副会長選任（事務局案に対して満場承認）

（6）議事（下記6に記載）

（7）その他（下記7に記載）

6. 議 事（進行：会長）

ア 学校運営に関する基本方針の説明（校長）及び承認（満場承認）

校長「STEAM教育や教育DXの推進、多様な生徒への対応、広報活動の充実などを組織的に進めていく。」

委員「HPの冒頭にはスクールミッションとスクールポリシーが掲げられているが、探究というワードが散りばめられていて佐高らしさが表れている。方針として良くできている。」

イ 学校概況報告（中高教頭）

中学教頭「学習環境は非常に落ち着いている。全国大会に出場する部活動も出てきている。不登校生徒が増加傾向にあり、組織的に対応している。」

高校教頭「学年4クラスながら優秀な進学実績。多数の部活動が関東や全国に進出。本校が温めてきた探究活動の拡充と高入倍率のアップが課題。今後も選ばれる学校になるよう努めたい。」

ウ 今年度の学校評価（主幹教諭）

エ 協議

会長「従来の学校評議員とは異なり、学校運営協議会は例えるならばスタンド席からベンチ入りしたようなもの。ただ声援を送るだけではなく、協働のスタンスで御意見を頂きたい。」

会長「協議の時間にも限りがあるので、方向性のある程度絞りたいと思う。本校の特色である探究活動の拡充をテーマにあげたいが、どうか。（満場賛同）」

会長「どの学校も探究活動の扱いに苦慮している。本校はどうか。」

職員「持続可能な運営という観点では業務過多な点もあり、探究活動を担う、特に中心となる職員の引継ぎが心配。」

会長「探究活動上、本校生徒と地域とのつながりはどういう場面で生じたのか。」

委員 A「当 NPO が行っている不登校児童への対応に、佐高生が参加してくれた。」

委員 B「当 NPO が依頼を受けた国際交流事業に、佐附中が積極的に参加してくれた。」

委員 C「本校主催のリーダーズシンポジウムに招待してもらったのが縁。」

委員 D「我が子の活動の様子は当然見えるが、他の子たちの活動が見えないのは残念。それが可視化される仕組みがあると良いのでは。」

委員 E「小学校の出前授業に本校生が何度も参加してくれた。彼らの活動は実に素晴らしいものだったが、こちらの反省として、一緒に活動の時間を振り返る機会をつくってあげることが出来なかった。現場に赴くことの大切さ。単にお客様として過ごすのではなく、現場のリアルを知ることの大切さ。せっかく学校を離れて実社会に触れるのだから、こういう視点をもっと重視しなければいけないと思う。」

会長「子どもたちの多様なニーズに対応していくためには、現場の職員だけでは限界がある。学校と外部とを連結する地域コーディネーターの役割は増しているのであり、また、地域の人材を掘り起こして環境を整えていくことも、本校の探究活動を拡充していく上で必要。これらを先生方に委ねるのは負担増に繋がるので、当協議会がその役割を果たしたいと思うが、どうか。具体的には会則第7条に規定されている専門部会を立ち上げることで、別同部隊として今後、情報収集等に当たることが出来れば。探究活動サポート部、みたいな。（委員賛同）」

委員 D「委員ではない他の保護者を、その部会に参加させることは可能か。多くの有志を募った方が情報収集はしやすい。」

県教委「必要なことだと思う。早急に確認したい。」

校長「そのような御提案をして頂き、本校の教育活動を支えて下さるのは本当に有難い。」

## 7. その他（連絡事項）

- ・第2回の日程について